

第8章 計画の推進により期待できる効果

1 交通網の充実による県内外・地域間の連携強化

鉄道網の整備により、混雑の緩和が図られるとともに、鉄道駅の設置により、鉄道利用不便地域の解消が図られます。特に、川崎・横浜都市圏域内など混雑率の高い区間を中心に、混雑が緩和すると見込まれます。また、新東名高速道路などの自動車専用道路網の整備や、一般幹線道路網の整備により、道路混雑の緩和が図られ、都市間の相互の往来、拠点的な都市への行きやすさが向上します。

例えば、道路の走行性が向上することで、平均旅行速度が向上し、出発地から目的地までの所要時間の短縮が見込まれます。

2 地域交通ネットワークの確保・充実

バスやタクシー等の地域公共交通の維持・確保を図るとともに、AI オンデマンド交通やMaaS等のスマートモビリティの実装を進めることで、過度に自動車に依存しなくても公共交通を使って活動がしやすい移動環境が実現されます。

例えば、人々が外出したくなる環境になることで、高齢者等の外出率向上により、未病改善やコミュニティの活性化が促進され、地域の人々が楽しみ触れ合いながらいつまでも活躍できる「人生100歳時代」の実現が期待されます。

3 利便性、快適性、安全性の確保

交通施設の戦略的・効率的な整備と更新を進めることで、交通インフラの耐震性や多重性及び代替性の向上が図られ、安全・安心な災害に強い交通網の構築が期待されます。また、増加する移動制約者や訪日外客などの多様化する交通ニーズに対して、ユニバーサルデザインの推進を図ることで、誰もが利用しやすく、安全で快適に移動できる環境が形成されます。

例えば、安全・安心な交通網の整備と交通施設におけるユニバーサルデザインの推進により、高齢者や障がい者などあらゆる人の社会参加が期待されます。

4 環境負荷の低減

公共交通網の充実や利便性の向上、交通需要マネジメント等による混雑の緩和や移動手段の変更など、交通の円滑化や効率化を図ることで、温室効果ガス排出量の削減や大気汚染などの環境負荷低減の効果が見込まれます。

また、MaaS など新たな交通サービスや既存の交通サービスを拡大していくことでも、エネルギー利用の効率化が進み、電気自動車などの導入による効果と併せて、運輸部門の脱炭素化に繋がることが期待されます。